

## 株主メモ

|                        |  |
|------------------------|--|
| 決算期                    | 3月31日  |
| 定時株主総会                 | 6月中  |
| 基準日                    | 定時株主総会関係：3月31日<br>利益配当金支払関係：3月31日<br>中間配当金支払関係：9月30日<br>その他：あらかじめ公告いたします   |
| 名義書換代理人                | 大阪府中央区北浜四丁目5番33号<br>住友信託銀行株式会社   |
| 同事務取扱場所                | 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号<br>住友信託銀行株式会社 証券代行部  |
| 【郵便物送付先<br>及び電話照会先】    | 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10<br>住友信託銀行株式会社 証券代行部<br>(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417<br>(その他のご照会) ☎ 0120-176-417  |
| 【インターネット<br>ホームページURL】 | <a href="http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html">http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/<br/>service/daiko/index.html</a>   |
| 同取次所                   | 住友信託銀行株式会社<br>本店及び全国各支店  |
| 公告掲載新聞                 | 日本経済新聞<br>当社は平成15年4月30日開催の取締役会決議において、第6期（平成15年3月期）以降の決算公告に関しては、定款に定める公告紙（日本経済新聞）への掲載に代えて、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第16条第2項但し書き並びに第3項に基づき、不特定多数の方が当社の貸借対照表及び損益計算書を閲覧できるための下記ホームページアドレス ( <a href="http://www.stream.co.jp/">http://www.stream.co.jp/</a> ) を設定しています。 |
| 上場証券取引所                | 東京証券取引所 マザーズ市場   |

## 第7期・事業報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日

ブロードバンド時代の  
ストリーミング市場の拡大を牽引し、  
トップシェアを維持しながら、  
業績の躍進を目指します。

代表取締役社長  
白石 清



株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当社の経営に一方ならぬご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

このたび当社「第7期事業報告書」をお届けするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

当社は平成9年5月の設立以降、インターネットへのアクセスがナローバンド中心の時代から、ストリーミングにおけるリーディングカンパニーとして市場の発展とともに歩んでまいりました。昨年は赤坂より現オフィスであります渋谷へ移転、サービス充実と更なる飛躍を図る体制を整えております。これもひとえに株主の皆様のご支援ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

低迷が続いた日本経済ですが、徐々にではありますが景気回復への兆しが随所に見られるものとなってきています。急速に進んだブロードバンド回線の普及を背景に、インターネットの情報の発信・受信地としての位置づけは、商業目的を中心に一層重要になってくるものと思われまます。

当社といたしましては、こうした環境の変化と進歩に伴って多様化する顧客のニーズに応える「リッチコンテンツソリューション」を提供する体制を充実させ、顧客からの信頼を高めマーケットシェアを一層確かなものとするべく、新サービスや有力な企業との協力関係を積極的に展開しながら、全社一丸となって邁進する所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

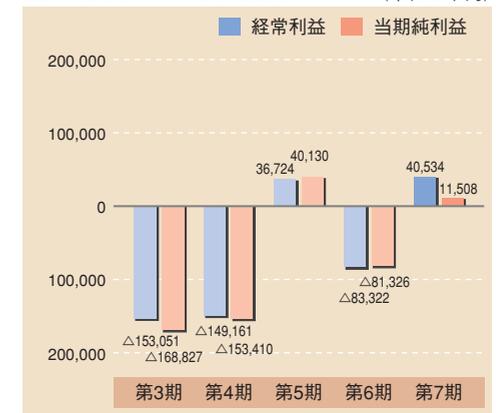
平成16年6月

業績等の推移

■ 売上高 (単位：千円)



■ 経常利益・当期純利益 (単位：千円)



■ 純資産額・総資産額 (単位：千円)



■ 1株当たり当期純利益 (単位：円)



第7期の実績

チャンネルパナソニック

<http://ch.panasonic.co.jp/>

松下電器産業株式会社の各種のサイトの中で、パナソニックの商品や活動を動画で紹介する、ブロードバンド放送チャンネル、「チャンネルパナソニック」のサイトの制作を支援いたしました。ブロードバンド帯域自動判別機能による最適映像の放送と操作性の向上、手話と字幕スーパー、映像検索、コンテンツ・ツアーなどのユニバーサル・デザイン設計がなされています。また、グローバルに企業活動を展開する松下電器の世界各地のCMを視聴でき、企業全体のブランディング効果もあわせてもっています。アンケート機能や動画チャンネル専用の運用管理システムを持ち、さらに携帯ポータルとの連携を行っています。お客様の声を企業活動に反映させ、より早くお客様へ情報を提供する各種ノウハウが集約された、ブロードバンド時代における企業コミュニケーション (CC) の新たな手法 (メディア) として注目を集めています。



TOYOTA “ZERO CROWN”

<http://www.zero-crown.com>



最新ニュースを24HR発信 “ZERO CROWN” TV

卓越の走りを徹底解剖 “ZERO CROWN” 研究室

トヨタ自動車株式会社が平成15年12月にフルモデルチェンジを行い発売したクラウン (“ロイヤル” シリーズ、アスリート) “ZERO CROWN” のブランディングとキャンペーンを行うWEBサイトの制作を行いました。『ZERO CROWN LAB』においては、Macromedia Flashを採用することで、クラウンの躍動感を演出しながら、性能やスペック、装備などの基本情報や、新型クラウンのコンセプトをコンパクトにレイヤー化することでシームレスに観ることができる仕組みを実現しています。『ZERO CROWN TV』においては、Macromedia Flash Communication Server MXにより、ストリーミングに高品質な映像を活用し、北川えりさんをナビゲーターとして迎え、TVを観ているような感覚を持っていただきながら、随時更新されている最新のコンテンツへと誘導しています。Jストリームの持つインフラが、大規模な容量の回線を本コンテンツの専用として用意することを可能にし、こうしたリッチコンテンツの視聴者の方々へのご提供を支えています。

トピックス

Macromedia Flashでブロードバンド映像をストリーミング配信する新サービス

これまでのストリーミングと一味違う表現力

Jストリームが新たに対応した Macromedia Flash Communication Serverは、WEBサイトとリッチインターネットアプリケーションに、オーディオ、ビデオ、リアルタイムデータを使った複数のユーザー間同士のコミュニケーション機能を提供し、ストリーミングメディア、リッチメディアメッセージング、リアルタイムコラボレーションを実現することができます。そのため、従来では困難であった、ストリーミング映像を駆使したインターフェイスデザインが簡単に実現し、柔軟性のある映像表現が可能になりました。

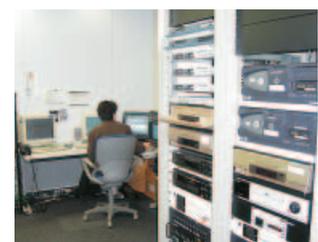


本社移転に伴い、プロダクションセンターを充実し制作能力アップ。スタジオも併設、ユーザーの利便性、当社サービスの利用機会を拡大



スタジオ

- ① 座り撮影
  - ② 音声の収録
  - ③ バーチャル背景の合成を目的とした撮影
- などを主目的として、平成15年10月の本社移転にあわせてオフィス内に設置しました。「ストリーミングは行いたい配信する映像を作る環境がない」との悩みを持つお客様へワンストップサービスを提供しています。



プロダクションセンター

ブロードバンドコンテンツの企画・制作から配信までのワンストップサービスの提供を求められるお客様の「ブロードバンドアウトソーシング」ニーズに対応するため、本社移転にあわせてプロダクションセンターの組織、設備を充実し、制作、開発力を高めています。

営業の概況

1. 営業の経過及び成果

当期の日本経済は、SARS（重症急性呼吸器症候群）や米国におけるBSE（牛海綿状脳症）発生等の阻害要因はあったものの、徐々にではありますが、外需や企業の設備投資の回復に伴い景気回復への兆しが随所に見られるものとなりました。

当社の事業領域であるインターネット業界においては、ブロードバンド回線の普及がいっそう進んでいます。平成16年3月末にはDSLサービスの加入者数が1,100万回線を突破し、インターネット利用者数も人口の60%を超えています。こうした中、ブロードバンドコンテンツへの需要や配信の重要性はますます高まっており、ストリーミングによるコンテンツ配信の事例はブロードバンドを中心に着実に増加しています。

こうした環境の変化と進歩に対応し、企業ニーズにあった「リッチコンテンツ(注1)ソリューションを提供する」ために、当社では昨年、DVD級の画質と臨場感ある音声を特徴とする「5.1Ch(注2)対応広帯域ライブ中継サービス」を開始したほか、マクロメディア株式会社との協業により、WEB上でのコンテンツ配信における表現力を飛躍的に高めるサービスである「Macromedia Flash Communication Server (FCS) 対応ホスティングサービス及びエンコーディングサービス」(注3)の提供を開始しております。一方、表現ツールの進歩やブロードバンド化の進行によって急速に広がったWEB上での表現手法を利用するノウハウや、これを用いたマーケティング手法の拡販のため、ネットリサーチやウェブ関連コンサルティングを行う各社と共同の「WEBマーケティングセミナー」を開催するなど、市場の開拓・深耕に努めました。

この結果、当期の業績につきましては、売上高1,727,234千円(前期比7.9%増)を収め、損益面においては、経常利益40,534千円、当期純利益11,508千円の結果となりました。

部門別の概況は次のとおりであります。

■ **ライブ放送部門**

ライブ放送部門においては、主力商品である「e Presenter」(注4)を活用した、決算説明会などのIR案件の受注に注力いたし

ました。IR以外の分野では、エンターテインメント関連のライブ案件や企業のPR活動、各種セミナー等向けの営業活動を引き続き展開いたしました。特にエンターテインメント系のライブ企画全体が低迷した影響を受けた結果、減収となりました。需要の喚起のため、平成16年2月には「ブロードバンドライブ中継ディユースプラン」の提供を開始しています。

■ **オンデマンド放送部門**

オンデマンド放送部門においては、「WEBマーケティングセミナー」でストリーミング技術の周知と利用法の提案を行いつつ、「e Presenter」、「ScreenCast」(注5)等商品の特性を活かした新規顧客の取り込みと既存顧客へのサービス向上との両面の推進を通じて、ストリーミング活用ニーズのさらなる発掘に努めました。新規にサービス提供を開始いたしましたFCSによるストリーミング配信の拡販と合わせて、企業のPR活動におけるストリーミング需要の取り込みが順調に進んだ結果、増収となりました。

■ **コンサルティングサービス部門**

コンサルティングサービス部門においては、当社が培ってきたインターネット放送のノウハウを柱としたコンサルティングサービスを提供しております。今期は音楽等の配信関連での引き合いがありましたが、顧客ニーズに対応した営業活動にとどめているため、減収となりました。

■ **制作部門**

制作部門においては、前期に引き続きエンコーディング案件などのストリーミング関連サービスの営業に努め、またFlash等の表現ツールを用いた、企業の人材採用、販売促進等各種WEB制作のディレクション等も積極的に受注し、顧客のニーズにあったワンストップでのサービスの提供に努めました。また、本社移転に伴い新設しましたスタジオの利用促進も行ってあります。こうした努力の結果、増収となりました。

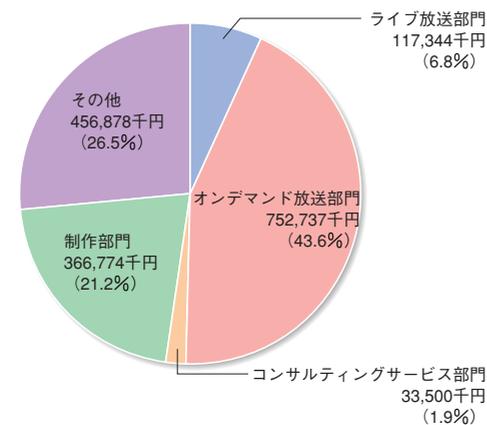
■ **その他**

その他においては、引き続き配信時の付随サービスである「Smart Selector」(注6)、「One Time URL」(注7)、「セキュリティ配信ソリューション」(注8)等のサービス提供に加え、配信

関連の開発案件の積極的な受注を行いました。また携帯電話向けに、au携帯電話の着うた関連サービスを開始し、受注拡大に努めました結果、増収となりました。

- (注) 1. 単に情報量が多いだけでなく、映像や音声を駆使した高い表現能力を持つコンテンツ。
- 2. 映画館で臨場感のある音響効果を再現するために開発された、6つのスピーカーを利用する音声出力システム。
- 3. Flashコンテンツの中に大容量で長尺かつ高画質なブロードバンド映像を組み込むことを可能にするサービス。
- 4. 動画とスライドを組み合わせバーチャルセミナーが簡単に実施できる配信サービス。
- 5. パソコン画面上の操作や表示の様子をそのまま録画して、解説者の音声などと合わせたプレゼンテーションコンテンツを制作できるサービス。
- 6. 視聴者がコンテンツの視聴ボタンをクリックすると、視聴者のパソコン環境にあったコンテンツを配信するASPサービス。
- 7. 視聴者がコンテンツにアクセスするたびに新しいコンテンツURLを発行し、ストリーミング視聴をさせる仕組み。
- 8. コンテンツに施した暗号情報と、その暗号を解く「ライセンス・キー」が一致しなければ視聴できないセキュリティ配信の仕組み。

■ **セグメント別売上高構成比**



2. 会社が対処すべき課題

今後の日本経済は、当面はデフレ基調の継続が予想されるものの、全体としては回復傾向に向かうものと思われます。これに伴い、企業活動はその本業においても、販売促進などの付随的活動においても活性化してくるものと思われます。インターネット関連業界では、DSL加入者の増加に象徴されるブロードバンド環境の拡大や、インターネット人口そのものの着実な増加が、企業活動の中でのストリーミング利用の将来的な拡大を強く後押しするものであると考えております。

当社は、映像や音声コンテンツを通じて企業と視聴者のコミュニケーションを豊かにするリッチコンテンツ・ソリューション・カンパニーとして、これまでに確立した配信インフラとノウハウ、豊かな表現技術を組み込んだストリーミング関連制作能力など最大限に活用し、販売促進やIRといった既存の領域においては更に顧客を開拓し、一方動画広告や楽曲、携帯電話への映像配信といった成長可能性の大きい市場においては、早期に実績と信頼を確立しておくことにより、圧倒的な市場シェアを獲得することが最重要課題であると考えております。

このために、回線速度の向上や表現ツールの多様化といったインターネット関連技術、環境の発達に適応し、業界内での競争優位性をより高めていくことに注力しています。WEB上での表現力を飛躍的に高めるツールであるFCS関連サービスの充実、企業のストリーミング利用にあたっての障壁を大幅に引き下げ「ブロードバンドライブ中継ディユースプラン」の拡販などを通じて、市場そのものの拡大と市場シェアの確保の両面に尽力する所存でございます。

また、制作にかかるコストのコントロールを如何に図るかが、会社の収益力を高める上での重要な課題であると考えております。内製と外注のバランスの調整や、他社との協業によるコスト低減等の施策により、収益性の向上に尽力する所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

貸借対照表（単独）

（単位：千円）

| 科 目            | 当 期<br>(平成16年3月31日現在) | 前 期<br>(平成15年3月31日現在) | 科 目             | 当 期<br>(平成16年3月31日現在) | 前 期<br>(平成15年3月31日現在) |
|----------------|-----------------------|-----------------------|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| <b>資 産 の 部</b> |                       |                       | <b>負 債 の 部</b>  |                       |                       |
| 流 動 資 産        | 2,680,442             | 2,727,428             | 流 動 負 債         | 190,252               | 213,893               |
| 現金及び預金         | 1,713,529             | 1,832,542             | 買掛金             | 3,985                 | 13,690                |
| 受取手形           | —                     | 4,636                 | 未払金             | 159,675               | 170,963               |
| 売掛金            | 427,619               | 354,275               | 未払法人税等          | 2,099                 | 2,290                 |
| 仕掛品            | 3,963                 | 186                   | 未払消費税等          | 9,001                 | 6,379                 |
| 前払費用           | 32,978                | 35,942                | 前受金             | 8,893                 | 12,069                |
| 預け金            | 500,000               | 500,000               | 賞与引当金           | 2,945                 | 4,474                 |
| その他流動資産        | 3,351                 | 1,345                 | その他流動負債         | 3,652                 | 4,026                 |
| 貸倒引当金          | △1,000                | △1,500                | 負債合計            | 190,252               | 213,893               |
| 固 定 資 産        | 273,993               | 223,064               | <b>資 本 の 部</b>  |                       |                       |
| 有形固定資産         | 159,378               | 119,053               | 資 本 金           | 2,132,454             | 2,124,416             |
| 建物             | 40,144                | 5,051                 | 資本剰余金           | 1,380,716             | 1,372,679             |
| 機械装置           | 12,741                | 9,167                 | 資本準備金           | 1,380,716             | 1,372,679             |
| 器具備品           | 101,988               | 104,833               | 利益剰余金           | △748,987              | △760,496              |
| 建設仮勘定          | 4,504                 | —                     | 当期末処理損失         | 748,987               | 760,496               |
| 無形固定資産         | 112,290               | 96,303                | (うち当期純利益)       | (11,508)              | (△81,326)             |
| 商標権            | 2,412                 | 1,830                 | 資本合計            | 2,764,183             | 2,736,599             |
| ソフトウェア         | 104,465               | 89,285                |                 |                       |                       |
| 電話加入権          | 5,187                 | 5,187                 |                 |                       |                       |
| その他無形固定資産      | 225                   | —                     |                 |                       |                       |
| 投資その他の資産       | 2,324                 | 7,707                 |                 |                       |                       |
| 長期前払費用         | 2,324                 | 7,527                 |                 |                       |                       |
| その他投資等         | —                     | 180                   |                 |                       |                       |
| <b>資 産 合 計</b> | <b>2,954,436</b>      | <b>2,950,492</b>      | <b>負債及び資本合計</b> | <b>2,954,436</b>      | <b>2,950,492</b>      |

（注）記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書（単独）

（単位：千円）

| 科 目                  | 当 期<br>(平成15年4月1日から<br>平成16年3月31日まで) | 前 期<br>(平成14年4月1日から<br>平成15年3月31日まで) |
|----------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <b>経 常 損 益 の 部</b>   |                                      |                                      |
| <b>営 業 損 益 の 部</b>   |                                      |                                      |
| 営業収益                 | 1,727,234                            | 1,601,443                            |
| 売上高                  | 1,727,234                            | 1,601,443                            |
| 営業費用                 | 1,686,791                            | 1,665,397                            |
| 売上原価                 | 1,007,860                            | 983,281                              |
| 販売費及び一般管理費           | 678,931                              | 682,116                              |
| 営業利益                 | 40,442                               | △63,953                              |
| <b>営 業 外 損 益 の 部</b> |                                      |                                      |
| 営業外収益                | 2,055                                | 1,980                                |
| 受取利息                 | 1,780                                | 1,416                                |
| 雑収入                  | 274                                  | 563                                  |
| 営業外費用                | 1,964                                | 21,348                               |
| 新株発行費                | 1,961                                | 21,348                               |
| 雑損失                  | 2                                    | —                                    |
| 経常利益                 | 40,534                               | △83,322                              |
| <b>特 別 損 益 の 部</b>   |                                      |                                      |
| 特別利益                 | 304                                  | 4,285                                |
| 償却債権取立益              | 304                                  | 4,285                                |
| 特別損失                 | 27,231                               | —                                    |
| 固定資産除却損              | 7,089                                | —                                    |
| 本社移転費用               | 20,142                               | —                                    |
| 税引前当期純利益             | 13,607                               | △79,036                              |
| 法人税、住民税及び事業税         | 2,099                                | 2,290                                |
| 当期純利益                | 11,508                               | △81,326                              |
| 前期繰越損失               | 760,496                              | 679,169                              |
| 当期末処理損失              | 748,987                              | 760,496                              |

（注）記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

1. 重要な会計方針

- (1) たな卸資産の評価基準及び評価方法  
製品……総平均法による原価法  
仕掛品……個別法による原価法
- (2) 有形固定資産の減価償却方法  
定率法
- (3) 無形固定資産の減価償却方法  
定額法  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）による定額法を採用しております。
- (4) 繰延資産の処理方法  
・新株発行費  
支出時に全額費用として処理しております。
- (5) 引当金の計上基準  
・貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。  
・賞与引当金  
従業員への賞与支給に備えるため、支給見込額のうち当期の負担額を

計上しております。

- (6) リース取引の処理方法  
リース物件の所有者が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- (7) 消費税等の会計処理  
税抜方式
- (8) 当期より「商法施行規則の一部を改正する省令」による改正後の商法施行規則の規定に基づいて計算書類等を作成しております。

2. 貸借対照表の注記

- (1) 有形固定資産の減価償却累計額 218,086千円
- (2) 貸借対照表上に計上した固定資産のほかに、電子計算機及び周辺機器の一部については、リース契約により使用しております。
- (3) 資本の欠損  
商法施行規則第92条に規定する差額 748,987千円

3. 損益計算書の注記

- 1 株当たりの当期純利益 83円93銭

(単位：円)

| 適 用                         | 当 期         | 前 期         |
|-----------------------------|-------------|-------------|
| 当期未処理損失<br>これを次のとおり処理いたします。 | 748,987,825 | 760,496,241 |
| 次期繰越損失                      | 748,987,825 | 760,496,241 |

株式の状況（平成16年3月31日）

- (1) 会社が発行する株式の総数 243,000株
- (2) 発行済株式の総数 137,463株  
(注) 当期中における発行済株式総数の増加の内訳  
旧商法第280条ノ19の規定による新株引受権の  
権利行使による新株式発行 590株
- (3) 株主数 5,315名
- (4) 大株主

| 株 主 名                   | 当社への出資状況 |            |
|-------------------------|----------|------------|
|                         | 持株数<br>株 | 議決権比率<br>% |
| トランス・コスモス・ユー・エス・エイ・インク  | 62,562   | 45.53      |
| 株式会社NTTPCコミュニケーションズ     | 20,652   | 15.03      |
| リアルネットワークス・インク          | 18,444   | 13.42      |
| K D D I 株 式 会 社         | 15,228   | 11.08      |
| T C I ク ラ ブ 2000        | 485      | 0.35       |
| 株式会社みずほコーポレート銀行         | 420      | 0.31       |
| 小 森 昭 彦                 | 206      | 0.15       |
| J ス ト リ ー ム 従 業 員 持 株 会 | 156      | 0.11       |
| 村 瀬 功 一                 | 153      | 0.11       |
| 森 山 君 子                 | 151      | 0.11       |

会社概要（平成16年3月31日）

- 社 名 株式会社Jストリーム
- 英 文 社 名 J-Stream Inc.
- 設 立 年 月 日 平成9年5月29日
- 会 社 所 在 地 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-25-18  
渋谷ガーデンフロント10F
- U R L <http://www.stream.co.jp/>
- 主 出 資 企 業 トランス・コスモス・ユー・エス・エイ・インク  
株式会社NTTPCコミュニケーションズ  
リアルネットワークス・インク（米国）  
KDDI株式会社  
株式会社みずほコーポレート銀行
- 事 業 内 容 (1) インターネットや携帯電話網等を利用した映像／  
音声／画像データ等の配信サービス  
(2) 映像／音声／画像データ等の配信に関連する各種ASPサービス  
(3) 映像／音声データの配信に関連するソフトウェア・ハードウェア等の開発・販売  
(4) インターネットを利用した配信に関するコンサルティングサービス

取締役及び監査役（平成16年3月31日現在）

|           |     |     |
|-----------|-----|-----|
| 代表取締役社長   | 白 石 | 清   |
| 取締役副社長    | 古 株 | 均   |
| 取 締 役     | 石 松 | 俊 雄 |
| 取 締 役     | 山 下 | 徳 夫 |
| 取 締 役     | 菅 井 | 毅   |
| 取 締 役     | 三 山 | 悟   |
| 取 締 役     | 原   | 隆 一 |
| 取 締 役     | 小 林 | 義 明 |
| 取 締 役     | 多 田 | 真 之 |
| 取 締 役     | 進 藤 | 公 彦 |
| 常 勤 監 査 役 | 長 野 | 剛   |
| 監 査 役     | 神 山 | 隆   |
| 監 査 役     | 荒 木 | 正 敏 |
| 監 査 役     | 畑   | 秀 樹 |